

一球通信 vol.142

*****コンテンツ*****

1. 広商一橋交流会レポート（佐治様ご寄稿）
2. OB 便り（H24年卒 吉田様）
3. 春季リーグ戦日程

1. 広商一橋交流会レポート（佐治様ご寄稿）

広商OBとの交流（広商野球クラブ京浜支部懇親会に参加）

恒例の広商野球クラブ京浜支部懇親会（2019年2月2日（土）ホテルグランドヒル市ヶ谷）に招かれ、今井会長・竹内副会長はじめOB14名と、大北新主将・粟主務の2名で総勢16名が参加し、広商OB諸氏と交流を深めた。

まず、広商野球クラブ京浜支部、田所支部長から、広商としては、一橋野球部との文武にわたる交流を末永く発展させていきたいと思っており、そのための一案として一橋生の広島でのホームステイの復活なども検討していきたいとの挨拶があった。

続いて、今井一球会会長から、平素の広商側からの指導に対して、特に年末の広島遠征に関して、またシーズン中の濱田さん、金光さん、高柿さんを始めとする広商OBからの懇切な指導や応援に謝意の表明があり、更に、今年は交流開始50周年の節目の年である事、一橋は入試に成功する為の術（すべ）を知っており、広商は野球の試合で勝つ術（すべ）を知っていると両校の特性がうまくかみ合うような交流が永続していくよう今後も工夫していきたいとの発言があった。

また、浜中広商野球クラブ会長からは、ここ数年広商は県大会で広陵高校に僅差で負け、その広陵が全国で良い成績を上げているというパターンが続いているが、今年こそ広陵を倒し県代表の座を勝ち取って全国大会に臨みたいとの力強い挨拶があった。

そのあと一橋側からは S39 佐藤さん、S54 新さん、H2 赤城さん、H3 菊池さんからそれぞれスピーチがあった。佐藤さんからは広商との交流が始まる前に一橋で故畠山先生と同じような発想をし、弱いチームが強いチームに勝つ方法を考え抜いていた同期の故小高さんの思い出、新さんからは学生時代の広島でのホームステイの話、平成卒世代の赤城さん、菊池さんからは、これからもこの行事に積極的に参加していきたい旨の挨拶があった。最後は一橋の大北新主将・栗主務が紹介された。大北主将からは広商合宿で学んだことが大変多かったこと、それを生かして春のリーグ戦での4部優勝、3部昇格を目指したいとの力強い表明があり、お開きとなった。

広商出席者 29名（数字は広商卒業年、敬称略）

S34 曾根弘信、S36 横山麗吉、S38 伊勢本金四郎、S39 山下節治、S40 内田俊雄、田中修司、S43 尾川節男、S47 古賀正、濱田規久二、山下兼正、S48 原田薫、S49 大城登、田所康弘（広商野球クラブ京浜支部長）、S50 浜中清次（広商野球クラブ会長）、S56 川崎泰介、山下哲司、S57 西田弘、S62 本廣巖生、H3 高柿健、H8 櫻木理、H11 毛利光宏、H14 竹野竜也、H19 吉原純平、H20 江野脇圭、平田雄己、H23 安本英正、H25 丸木義隆、H29 砂原大地、水澤天

一橋出席者 16名（数字は卒業年、敬称略）

S35 久木田義雄、S39 佐藤堅一、S43 山口武夫、S44 鐘江健一郎、S45 稲垣博正、S47 吉田裕、S48 今井鉄郎、竹内昇、S51 飯島富士夫、佐治誠、S54 新悟、大和啓一、H2 赤城将之、H3 菊池優徳

3年生 大北啓史、2年生 栗圭史郎

（左から）発言する今井会長、佐藤さん



新さん、大北主将



(左から) 発言する田所広商野球クラブ京浜支部長、浜中広商野球クラブ会長



2. OB 便り（平成 24 年度卒 吉田様ご寄稿）

現役時代に何の実績のない私が、今回寄稿させて頂くこととなり、この場を借りて深謝申し上げます。何について書こうか大変迷いましたが、私が野球を真正面から語ろうとしても月並みな内容で終わることが関の山ですので、今回は野球とは切っても切れない存在の「応援」について、当時の回顧とともに書かせて頂きます。稚拙な文になりますが、何卒ご容赦下さい。

野球の試合において非常に心強い味方となるのが応援であり、常に一橋大学野球部の心強い味方でいてくれる存在が、一橋大学応援部という団体であるかと思います。数多くの体育会の応援がある中で、応援部の皆さんは必ずリーグ戦の応援に駆けつけて下さり、非常に頼もしい存在であることは、今も変わらないことと思います。また当時、陸上グラウンドで鍛錬を重ねる応援部とは、野球部と練習場所も近く、切磋琢磨する存在として、私自身いつも勇気を頂いていました。

そんな私ですが、入学後は野球部と応援部のどちらに入部しようか非常に迷い、野球部に入部後も、4月中は練習がオフの日に応援部の体験会に参加させて頂いておりました。当時野球部の先輩方からも「応援部なら止めないので、応援部に入部してもいいよ。応援から野球部を支えてよ。」と言って頂き、野球部と応援部の深い関係性に感動した記憶があります（本当は、野球部員として可能性のない私に対する先輩方の心遣いであったと思いますが、当時はそれに気が付けませんでした…）。

その後も応援部への想いは消えることはなく、思い出されるのは1年生の時、一橋大学で三商演舞会があった時のこと。一橋の応援メドレーが始まるやいなや、興奮し思わずメガホン片手に舞台下に駆け寄ろうとしてしまい、「恥ずかしいからバカなことはやめろ！」と周囲に羽交い締めで止められたこともありました（私の出身である埼玉県の一部高校では応援団文化が今でも根強く残っており、応援団のステージには舞台下で一般生徒がエールを送る風習がありましたが、当時これを全国的スタンダードだと勘違いしていた私の大きな失態でした）。

最後になりますが、そんな応援において、卒業後も支えられているフレーズがあります。それは、高校野球などでもよく使われる、山本リンダさんの『狙い打ち』内でよく歌われる「お前が打たなきゃ誰が打つ」というフレーズです。私自身、会社員生活を送る毎日では、まさに一会議、一商談が勝負であり、「俺が打たなきゃ誰が打つ」の精神が日々求められると痛

感じております。最後は自分でやり遂げなければならない、誰も助けてくれないその状況は、たった一人で投手と対峙する野球の打席によく似ており、頼れるのは自分自身のみです。学生時代、応援部がかけてくれたそのフレーズに背中を押される気持ちで、「俺が打たなきゃ誰が打つ!」「俺が決める!」と心を奮い立たせ、これからの社会人生活、そして人生を、日々精進していきたいと思う毎日です(そんな私ですが、学生時代、必死に練習をしていたのは送りバントでした…)

長文・駄文、失礼致しました。2019年シーズンの一橋大学野球部のご活躍を、影ながら心より祈念致しております。

3. 春季リーグ戦日程

春季リーグ戦の試合日程が決定いたしました。OB・OGの皆様におかれましてはお忙しいことと存じますが、ぜひグラウンドにてご声援のほどよろしくお願い致します。

4/13(土) 10:00~ vs 都市大 @一橋 G

4/14(日) 10:00~ vs 都市大 @一橋 G

4/20(土) 13:00~ vs 東京工業大 @一橋 G

4/21(日) 13:00~ vs 東京工業大 @一橋 G

5/4(土) 10:00~ vs 都市大 @一橋 G

5/5(日) 13:00~ vs 都市大 @一橋 G

5/11(土) 10:00~ vs 東京工業大 @一橋 G

5/12(日) 10:00~ vs 東京工業大 @一橋 G

ただし、天候等により日程変更の場合がございます。最新の情報は一橋大学硬式野球部または東都大学野球連盟の公式ホームページをご確認ください。

最後まで読んでいただき、ありがとうございます。
今後とも一橋大学硬式野球部へのご支援、ご声援のほど宜しくお願い致します。

一橋大学硬式野球部
1年マネージャー 浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓
<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

OB・OG 様専用ページパスワード：hitbbc-obog

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓
hit.u.bbc.mg@gmail.com